

# これからの IT エンジニアと私たち

■ 高町 咲衣



突然ですが、IT 業界では人材不足の話をよく耳にします。もちろん人材というものはいきなりその辺から生えてくるわけではありません。

人材が足りていないということは、人材が育成されていないということで、つまり教育が足りていないのです。

それもそのはずで、少し前まではまともにプログラミングを扱うようになるのは大学や専門学校以降で、高校まではカリキュラムにほとんどそれらは含まれない、あるいは含まれたとしても優先度が低いのが一般的でした。

これを科学に置き換えて考えてみてください。カリキュラムにまともに組み込まれていなかったのに、突然大学レベルの科学ができる人がどれだけいるでしょう？ 研究者が不足するのは目に見えています。

子供のころにプログラミングに触れる機会があったという人は、たとえば近所にあるプログラミング教室に通っていたり、身近に IT 関係の人がいて教わったり、もしくは完全に独学で何かしてみたりなど、学校とは別の場所での取り組みだったはずです。

そうでないなら、大学や専門学校で初めてプログラミングに触れたり、何かのきっかけで独学で学び始めたりという人も多いかもしれません。

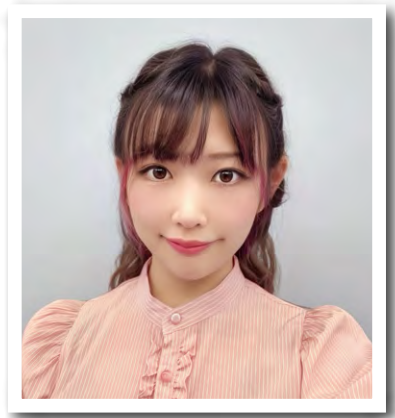
しかし、2020 年頃から教育界は大きく動き出しました。

まず 2020 年に小学校がプログラミング必修化となり、2022 年に高校では必修科目である「情報 I」が新設されました。

高校の指導内容について調べてみると、ネットワークの仕組みを学んだり、データベースを取り扱ったり、

■ 高町 咲衣  
IT エンジニア/シンガー

福岡県出身。PHP8.4 の Release Manager で、PHP のコア開発者。専門領域は BCMath と PDO。IT エンジニアとして活動する傍ら、動画配信/歌手としても活動している。



モデルの概念が出てくるなど、だいぶ実践寄りの内容が見られます。

一方小学校では「プログラミング的思考力を養う」というねらいのもと、具体的な内容はある程度指導者に裁量権があるようです。

中学校では、この中間の橋渡しをするようなイメージでしょうか。中学校では元々「技術」の中にプログラミングが含まれていますが、小学校の必修化に関連するような「新しい」指導内容についての情報はあまりなく、もしかすると多少手探りなのかもしれません。

新しい試みであるのでうまくいかないことも当然あるとは思いますが、これは間違いなく大きな一歩です。

このような新しいカリキュラムを受けてきた子供たちの最初の世代は、(2022 年度の高校 1 年生で、4 年制大学の想定) 2029 年頃から社会へ羽ばたき始めます。

2020 年に小学校 1 年生だった子供が新しいカリキュラムをフルで受けて社会へやってくるのは(同じく 4 年制大学の想定で) 2036 年頃。

人材の総数が増えるのか、それとも数はあまり変わらずに質が高まるのか、いったいどのような変化が訪れるのかはまだ分かりませんが、少しずつ「何か」が変わってゆくのは間違いないでしょう。

日本の IT 業界の変化の兆しがもう、すぐ目の前まで迫っています。

変化を良い方向に迎え入れるためにも、今現場を歩いている私たち現役の IT エンジニアができることはなんだろう? と、日々考えています。